９月２１日　ナショナリズム　と　ほたるのはか

朝は 6 時ごろに起きて、パドゥームたちクッキング班の「ナム・プリック・カピ」づくりを見学させてもらった。「ナム・プリック・カピ」というのはエビのペースト（＝カピ）に唐辛子（＝プリック）や、ライムとマークンという緑の実とにんにくをミキサーにかけたもの、パパイヤのスライスしたもの、砂糖、マクアプアンという緑の実を混ぜて出来上がる。ミキサーが手に入らなかった時代は器に材料を入れて棒で潰していたそうだが、今ではミキサーでゴリゴリやっている。カピ作り見学が一段落してからは昼ごはんの準備の手伝いをした。マクアプアンのヘタを取る作業で爪の先が真っ黒になった。

（マクアプアンのへたを取る作業↓）　　（カピにパパイヤのスライスを投入↓）

朝ごはんを食べ、コミュニティセンターをぶらぶらしていると、魚の木造が売られているのを、ヴィローさんが教えてくれた。なんでも、すべて手作りで、値段が一つ 3000 バーツ！その値段にぼくらがびっくりしていると、横で見ていたバンチョムさんが「手作りで 3000 バーツなら安い方だよ。なんせ手作りなんだから」と言っていた。タイの人々にとって「手作り」ってのは価値が高いのかなあ。でも、魚の顔がすこしどや顔というかなんというか、すこしだけイラッとさせる顔だったのが面白かった。

その後もコミュニティセンター内の写真を撮ったりした。浅山はセラーグループの方た

ちを観察してなにかしらメモをしていた。真面目ですねい！その後、バンチョムさんがテーブルのセッティングを手伝うんだ～みたいな感じのジェスチャーを英語を交えて言ってきたので、テーブルと椅子のセッティング、料理の配膳・片づけなどを手伝った。久しぶりの運動で、終わってからは達成感があった。テーブルのセッティングはけっこう難しかった。見ているとそんなに難しくなさそうなのだが、やってみるとうまくいかなかった。平然とテーブルセッティングをこなしていく青年たちすごい！

昼飯も手伝いも終えて一息ついていると、プンさんが「マーケットに行くからパドゥームについていくんだ」と言うので、パドゥームについていって一旦お家に帰った。お家に帰るとトゥッケーさんの奥さん・コーンカーイさんがバイクで来た。ん？？？サイドカーがないぞ・・・。なるほど。パドゥームが「パイ　＃＄％？（ほにゃらら)」と言って、バイクの後ろに乗って僕らに合図する。そう、僕らはチャリで行くことになった。僕らが自転車だということもお構いなしという感じでバイクは普通にトバシテいく。車輪の大きなチャリを漕ぐ浅山が懸命についていったが、車輪の小さい僕と井上は「まじパドゥームオニだろ～」とかこぼしながら遅れてついていった。マーケットでは魚、カニ、野菜や焼き菓子、タイの伝統的なお菓子、串焼きなどが売られていた。

マーケットの中には、足を失った乞食のおばさんが居た。僕はいままでそういう人に会っても何もしなかったのだが、今回は写真を撮らせてもらおうかと思って 5 バーツをそのおばさんにあげた。5 バーツを渡してあと、カメラのジェスチャーをしたら、首を振られたので撮れなかった。でも、カメラのジェスチャーを見て首を振るときのおばさんの表情を見て、自分がいかにひどいことを申し出たのかがわかって、自分の配慮の無さに呆然とした。このおばさんがどんな経緯で足を失い、どんな目的や経緯で乞食をしているのかも知らずに、ジャーナリスト気分でカメラを申し出た。でも彼女が首を振りながら見せた苦々しい表情は、彼女が進んで乞食をしているのではないと感じた。僕の勘違いとか勝手な想像なのかもしれないけど、彼女は乞食をしていることを心底撮られたくないのだということが分かった。また、お金をもらっておいて悪いがそれはできない、という感じの表情で申し訳なさそうにしているのが、さらに申し訳なかった。二重に不快な思いをさせてしまった。たぶん、僕が乞食をしていたら自尊心とかずたぼろになって、だれかのカメラに収まりたいとは思わないだろう。僕はそんなに撮られることは嫌いじゃないが、もし乞食をしなければならないような生活に陥り、みすぼらしい格好をしていたら、どんな顔をしてカメラに向いていいのかわからないだろう。「ハイ、チーズ」で笑えねえよ！って言いたくなるかもしれない。僕は彼女の人生を想像することができていなかったのだ。そもそも金を渡すから写真を撮らせてくれってのが気持ち悪いんだなあ。乞食の人はそんなサービスをしてるわけでもないのに。知らず知らずのうちに一個人と一個人とのやりとりじゃなくて買い手と売り手みたいな関係を勝手に想定して、相手に押し付けていたのだ。また、その関係に相手を巻き込むためにお金を渡して、相手の気持ちも考えずに写真を要求し、断られると不快に感じ、また相手にも申し訳なさを押し付ける。お金を使ったひどい暴力で二重に

相手を傷つけてしまった。以前に乞食のひとを見たときにはこの上から目線みたいな感じを気持ち悪いなと思っていたのだが、今回の気持ち悪さは「ジャーナリスト気取り」と「お金による支配」だった。知らず知らずにお金の力を計算に入れて考えを巡らし、写真家気取りで相手を傷つけていた自分が嫌になった。

マーケットから帰ってくると（またチャリでダッシュして(^_^;)）、茹でカニが用意されていた。浅山は「年に一度食べれるか食べれないかと言ったら食べれないカニだ！」と言って歓喜してカニをむさぼり食っていた。僕が 1 つ食べる間に 2 つ食べるほどの勢いだった。

そして、今日はバレーボールのタイ代表 VS 日本代表の試合だった！プンさんとターさんとコミュニティセンターに集まって、センター内にあるテレビで試合を見た。プンさんはサッカーの日本代表のユニフォームを着て来ていた（笑）ホントンというウィスキーを飲み、牛の炒め物やおかしを肴にしてみんなで鑑賞・応援。今日はこの試合が有るので、朝から村の人に「ウォンレーボーン、イープン、タイ」と連呼され、指さし会話帳を使って「タイが勝ったらおまえたちはここにステイできる。でも日本が勝ったら日本に帰るんだな（笑）」と村民の３・４人に言われ、ホームステイ先のお母さんのパドゥームからも「日本が勝ったら晩飯抜きね^^b」と言われた（笑）。村人にとっては格好のいじりネタだったようだ。それにしても、volley-ball という英語を聞いて、それを聞いた日本の人は「バレーボール」という発音で解釈し、タイでそれを聞いた人は「ウォーレンボーン」という発音で聞こえたというのは、面白いなあと思った。

試合観戦中は日本代表の宮下と木村がテレビに映ると、プンさんやターさんが「ミヤシタ～」「サオリ~」と言って黄色い声援を送っていた（笑）。宮下がタイではけっこう人気らしい。ここ 2，3 年バレーボールをじっくり見ていなかったので、選手がかなり変わっていることに今更ながら気付いて、プンさんとターさんよりも日本代表について知らなかった。日本代表のミスで点が入るたんびにターさんが「アリガトウゴザマス」とか「ゴメナサイ」とか言っておどけていた。結局タイのストレート勝ちであっという間に終わってしまった。タイのチームが試合終了後に座って土下座のような格好で応援席に礼をしていたのが驚き

だった。試合も終わり、酔いもすこし回ってきたところで帰った。帰ってパソコンを開けると昨日見かけたホタルがぼくのパソコンに挟まれてご臨終していた orz。なんとも申し訳ない。